

群馬、大分建協が意見交換

群馬県建設業協会（青柳剛会長）と大分県建設業協会（安部正一会長）は24日、前橋市内の群馬建設会館で、災害対応などの情報発信について意見交換した。群馬建協は新・災害情報共有システム「ぐんケン見張るくん」



群馬建協は更新頻度を高めることが重要と説いた

大反響 1万リツイートも

新・災害情報共有システム「ぐんケン見張るくん」紹介

ん」を紹介した。災害復旧の進捗状況や日常のパトロール結果、協会活動などを写真や動画を添付してツイッターに毎日複数回投稿しており、それを見た県民から大きな反響が寄せられていることを説明した。

大分建協は大規模災害防災業務計画と大規模災害時行動マニュアルを策定し、4月から運用している。災害時の建設業の取り組みをアピールする方法を検討中で、SNSを活用した情報発信の先進事例である群馬建協の取り組みを聞くために訪問した。江藤康世青年部会長、池永俊八専務理事ら4人が訪れた。

「ぐんケン見張るくん」は、2008年度に構築した「GPS携帯による災害情報共有システム」を1270万円かけ、14年度に改良したシステム。協会員が送信したパトロール結果な

どの災害情報を瞬時に協会、県、市町村が共有することにも、協会がツイッター上で一般向けに情報発信している。ツイッターアカウントは2359アカウントからフォローされ、反響の多い投稿は約1万回のリツイートがあったという。前橋市と高崎市の公式アカウントにもリツイートされるなど、情報の確実性で行政の信頼を得ている。

意見交換会で池永専務理事は「行政や県民に溶け込んでいいると感じた。災害時に真っ先に現場へ行く建設業が一番情報を持っており、これを何とか生かせないかと思っている。大分でもやりたい」と話した。青柳会長は「一般に見てもらいたいので、やりがいが出てきた。もつやめるわけにはいかない」と述べ、平時の活動を含めて頻繁に更新することが重要と説いた。

群馬建協

災害情報共有で意見交換

大分建協 システム導入の参考へ

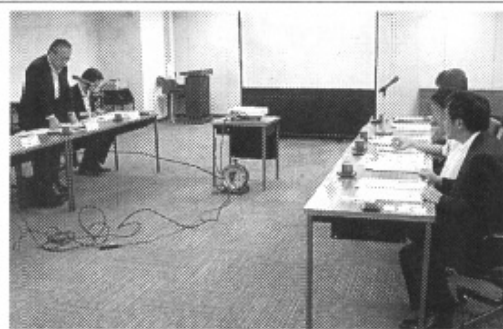
群馬県建設業協会（青柳

剛会長）は24日、前橋市の群馬建設会館で大分県建設業協会（安部正一会長）との意見交換会を開いた。写真。大分建協は、SNS（インターネット交流サイト）を活用した群馬建協の災害情報共有システム「ぐんけん見張るくん」と同様の開放系の災害情報共有システムの導入を計画。群馬建協の取り組みを参考にしようという意見交換した。

＝11面参照

大分建協からは、「ぐんけん見張るくん」の運用について、「会員企業の技術者が災害データ・写真を投稿するということが、支部間に取組みの温度差はないのか」「情報の精度は保たれているのか」などの質問が出た。

これに対して青柳会長は「投稿する現場技術者は災害箇所の土砂崩壊の恐れなども察知できる能力を有



し、基本的に情報の精度は高い。当初は支部間の温度差もあったが、14年の県内豪雪時の一般県民のアクセス数の多さが大きな励みになった」と説明。事務局か

らも災害時に各支部にFAXで積極的に投稿するように呼び掛けたり、各支部が集まる会議でも徹底を働き掛けたらしていることを紹介した。

さらに「ぐんけん見張るくん」が、ツイッターを用いた開放系のシステムであることを強調。「閉鎖系のシステムを導入している県もあるが、災害時に機能できていないと聞く。災害時に限らず、日常、通常の降雨などの際には安全であるという情報も発信する。日常の地道な取組みがポイントになる」とアドバイスした。

SNS活用災害情報共有システム導入へ

大分建協

大分県建設業協会（安部正一会長）は、SNS（インターネット交流サイト）を活用した災害情報共有システムを導入する。協会青年部が中心になり、自治体などとも協力しながら準備に着手。18年度のシステム構築を目指す。

＝5面に関連記事

「ぐんけん見張るくん」と呼ぶツイッターを用いた災害情報共有システムを運用している群馬県建設業協会（青柳剛会長）と24日に前橋市内で開いた意見交換会で明らかにした。

大分県内では昨年の熊本地震や今年7月の九州北部豪雨など大きな自然災害が続いており、「災害対応で地域の建設業の活躍を広く知ってもらうことが重要になる」との問題意識から、検討を進めてきた。群馬建協と同様のシステムの構築を目指す。